

埼玉県「地域日本語教育プログラム」を活用した 公的日本語教室の試行レポート



これまで埼玉県の地域日本語教育は、長年にわたり地域のボランティアの皆さんの自発的な活動によって支えられてきました。県内には令和5年度時点で140の日本語教室を運営する団体があり、地域の日本語教室は、日本語を学ぶ場であると同時に住民同士のつながりや交流の場としても大きな役割を果たしています。

一方で、学習環境や教材・専門人材などのリソース、学習支援のノウハウは地域や団体ごとに差があることや、近年学習者の増加に伴い学習者の背景やニーズが多様化し、ボランティアの負担が高まっていることが課題となっています。特に、日本語がほとんど話せない、いわゆる「日本語ゼロ初級者」への対応は負担が大きく、ボランティアだけで支えることの難しさが指摘されています。

こうした課題を踏まえ、埼玉県は日本語ゼロ初級者向けに到達レベルが担保された公的な日本語学習機会の整備を進めています。その一環として、生活Can do(※)を参照した「生活者としての外国人のための埼玉県『地域日本語教育プログラム』(埼玉県「地域日本語教育プログラム」)」の開発を行っています。このたび、川越市及び三郷市と連携し、本プログラムを活用した日本語教室の試行を行いました。その取り組みの様子をご紹介します。

● 埼玉県「地域日本語教育プログラム」 ●

令和7年度、埼玉県国際交流協会は県の委託を受け、本プログラムの開発・試行及び本プログラムを担う人材養成研修を実施しました。



プログラムの対象者

< 日本語初級 A1 コース >

日本語学習が初期の外国人住民で下記に該当する方

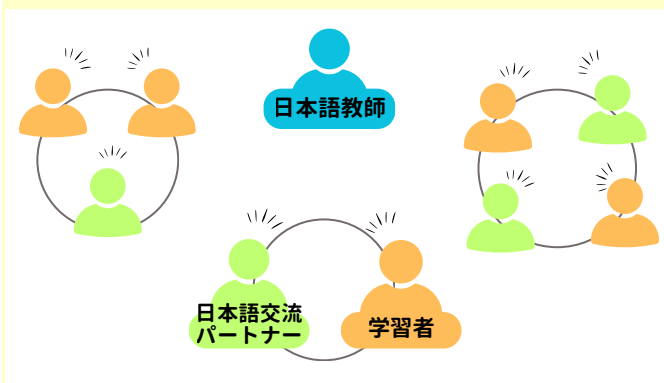
- ・ 16歳以上
- ・ 来日して間もない生活者
- ・ 定住予定者
- ・ 日本語学校等での体系的な日本語学習経験がない



プログラムの理念・特徴

- ・ 一方的に「教える・教えられる」活動ではなく、**対話・交流を重視**
- ・ 生活Can doを参照し、日本語で「**できること**」に注目
- ・ 学習者だけでなく、**ホスト社会(地域・日本社会)への働きかけも重視**
- ・ 学習者の**母語・母文化を尊重**
- ・ **社会参加・自己実現**につなげる視点を取り入れる

教室のイメージ図



- ・ 埼玉県「地域日本語教育プログラム」を活用した教室活動の企画・進行は**日本語教師**が行います。
- ・ **日本語交流パートナー**とは、学習者の隣で会話をサポートし、学び合う仲間(地域のボランティア)を指します。

左図以外に、埼玉県地域日本語教育コーディネーターが企画・運営のサポートを行います。



各回の活動の流れ

テーマの確認/活動前の自己評価チェック

アイスブレイク

活動

最終タスク

ふりかえり/活動後の自己評価チェック

※「生活Can do」

日本に在住する外国人が、日常生活において日本語で行うことが想定される言語活動を「○○できる」という形式で具体的に例示したもの。国が示す「日本語教育の参照枠」(日本語教育に関わる人が参照できる日本語学習、教授、評価のための共通の枠組み)の言語能力記述文(Can do)の一つ。



今回試行した日本語初級 A1 コース (全10回) の内容

ユニット No.	テーマ	目標
1	自己紹介	名前、出身、仕事、できる言語などをたずねたり、答えたりすることができる
2	好きな物	好きな物や好きな場所について、簡単な言葉でたずねたり、答えたりすることができる
3	私の一日	一日の生活について、何時に何をするか、簡単な言葉でたずねたり、答えたりすることができる
4	休みの日	休みの日にしたことや、簡単な感想を、SNSなどに書くことができる
5	私のふるさと	簡単な言葉で自分の家を紹介することができる
6	買い物	お店でほしいものを買うことができる
7	趣味	地域サークルの参加や公共施設の利用のために、申込書に必要な情報を記入することができる
8	病院	体の調子が悪い時、病院で症状について簡単に説明し、診察を受けることができる
9	近所づきあい	近所の人と会った時に簡単なやり取りができる
10	防災	災害に備えることができる

自分の出身国について紹介する様子 (三郷市)



「防災」をテーマにした活動中、地図で避難所を確認する様子 (川越市)

川越市

川越市主催「はじめての日本語教室」

- 実施時期：令和8年2月1日(日)～3月4日(水)の毎週日曜日&水曜日
- 時間：日曜：15時～17時 / 水曜：13時30分～15時30分
- 会場：川越市国際交流センター (クラッセ川越内5F)

全10回で、延べ78人の学習者、延べ71人の日本語交流パートナーに参加いただきました！



募集用チラシ (川越市作成)

三郷市

三郷市及び三郷市国際交流協会 共催「日本語ゼロ学習者を対象とした日本語教室」

- 実施時期：令和8年1月18日(日)～3月22日(日)の毎週日曜日 (ただし、第2回と第9回は土曜日に開催)
- 時間：13時～15時 ※一部変更あり
- 会場：三郷市瑞沼市民センター

全10回で、延べ89人の学習者、延べ68人の日本語交流パートナーに参加いただきました！



学習者の声

(母語でのインタビュー及びアンケートより抜粋)



受講前は、日本語を間違えるのが怖くて、日本人に話しかけるのを避けていました。今は自信が付き、間違えても大丈夫だから、学んだ言葉でなんとか相手に伝えようと思い、話せるようになりました。(バングラデシュ出身者)



日本語交流パートナーが隣で丁寧にサポートしてくれたので、安心して学ぶことができました。(ネパール出身者)



どの回もとても楽しく学ぶことができました。教室の皆さんが家族のように感じられました。(ブラジル出身者)



もっと日本のことを知りたいと思うようになりました。日本語ももっと勉強を続けていきたいです。(バングラデシュ出身者)

日本語交流パートナーの声



言葉を通して交流できたことがとても楽しく、やりがいを感じました。



活動中、学習者から母語を教えてもらう機会があり、外国語を学ぶ大変さを一緒に感じることでよかったです。



日常生活に密着した内容、バラエティに富んだプログラムになっていました。日本語教師の先生から、各回の開始前に当日の流れやポイントの説明があったので、スムーズに学習者と接することができました。



学習者を中心に、それぞれの立場で精一杯の情熱を注ぎこんでいる「学びの場」になっていたと思います。

日本語教師 (担当講師) の声



- 回を重ねるごとに、学習者が自分のことを楽しそうに語り、自然に質問し合う姿が印象的でした。日本語交流パートナーの方の丁寧な関わりが、そうした言葉を引き出しだして感じます。
- 外国人住民の方々が地域とつながるために、公的な日本語教室だからこそできることがたくさんあると実感しました。日本語教師として、その可能性をさらに広げていきたいです。



地域日本語教育コーディネーターの声

本プログラム最大の特徴は、日本語教師による授業でありながら、日本語交流パートナーと学習者が互いに地域住民として「本物の交流」ができることです。授業では両者が協力して活動をするので、コースを通じて自然と友情や絆が生まれます。単なる日本語学習の場を超えた「多文化共生の地域づくり」につながる本プログラムが、埼玉県内に広がっていくことを願っています！